

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立関有知高等学校 学校番号 34

## 【総務部】

### I 自己評価

1 学校教育目標	生徒一人一人の「生きる力」を育むため、個々の能力や長所を伸ばし、優れた創造性と豊かな社会性をもった、逞しく実践力のある心豊かな人間の育成を目指す。		
2 評価する領域・分野	◇校内研修・PTA・地域連携事業【総務部】		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本校で、外部講師の講演や様々な体験活動など授業以外の学習の機会が多い」という問いで「あまり当てはまらない」「まったく当てはまらない」とした生徒12%⇒23%、保護者4%⇒20%と低下。</li> <li>・「学校は、保護者・地域・関係機関との連携を密にして、開かれた学校づくりに努めている」の問いで「あまり当てはまらない」「まったく当てはまらない」とした保護者4%⇒20%と低下している。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校行事の中で多様な経験を積むことで優れた創造性と豊かな社会性を培っていく。</li> <li>◇研修を通じて教師の指導力向上と授業改善を図る。</li> <li>◇読書指導と図書館活動の充実を図る。</li> <li>◇開かれた学校を目指し、保護者・地域に本校の教育活動への評価を改善に活かす。</li> </ul>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・図書館利用を推進する組織体制（図書担当、図書委員会）		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 研究授業・校内研修を通して、教師としての指導力の向上を目指す。</li> <li>(2) 学校行事を通して多様な経験をさせ、創造性と社会性を培っていく。</li> <li>(3) 学校行事・公開授業、その他の学習活動の発表を通じて、保護者・地域と連携を図る。</li> <li>(4) 読書指導と図書館活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教師相互による授業評価と授業研究</li> <li>(2) 各学校行事の生徒アンケート</li> <li>(3) 学校関係評価の向上。</li> <li>(4) 読書感想文・朝読書を通じた読書指導と図書館利用を推進するための広報活動の充実。</li> </ul>		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な授業公開・授業研究の実施。</li> <li>・「学校見学会」のための学校紹介映像、授業紹介映像の制作。</li> <li>・「関有知ジモト大学」の開催。</li> <li>・図書委員会による啓発活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 公開授業と授業研究・授業評価研究の実施。</li> <li>② 学校見学会参加者のアンケート結果</li> <li>③ 関有知ジモト大学の参加者の感想。</li> <li>④ 図書貸出数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A (B) C D</li> <li>(A) B C D</li> <li>A (B) C D</li> <li>A (B) C D</li> </ul>	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科において、生徒自らが考え行動する「参加型授業」の場面が増加し、授業中生き生きと活動している生徒が多く見られる。</li> <li>○学校見学会は2日間で25の中学校から201名の中学生と150名の保護者の参加があった。</li> <li>▲今年度はアンケート結果にも表れているようにコロナ禍で様々な体験活動が実施できなくて残念な一年であった。来年度はリモート等工夫して、関有知ジモト大学等の活動を充実させていきたい。</li> <li>▲図書室利用（貸出・閲覧）がやや減少している。</li> </ul>		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的探究の時間」について。「課題研究」を実施。</li> <li>・「関有知ジモト大学」の発展的活動の拡大。</li> <li>・「学校見学会」の改善。</li> <li>・「関有知居場所カフェ」設置のための検討。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

### 【意見・要望・評価等】

学校運営協議会委員など外部からの評価や意見

- ・学校アンケートの低下はコロナ禍で対面して行うことができなくなったため仕方がない結果かと思いました。その中でも、リモートを使っての関有知ジモト大学などの開催は生徒にとって貴重な経験になると思います。参加者がまだ少ないとのことでしたので、事前に生徒が社会のどのようなことに興味があるかを把握されたうえで、講師を選定されるとより参加者を増やすことができるのではないかと思います。継続していくことが大切かと思しますので、今後も進路指導部や学年会と連携を取りながら検討を重ねてよりよい場としていただきたいと思います。
- ・第2回にお話しさせていただいた関有知ジモト大学について、早々取り組んでいただき、ありがとうございます。学校現場においてこのスピードが大変画期的なことだと感服しております。生徒の参加が少なかったということですが、先生方のご苦勞があったかと思いますが、3回合計で50人近く参加していただけたことは大変良かったことではないでしょうか。
- ・「地域の生活と仕事を守る人材を育てる」という私の勝手な関有知高校の目指す姿として、地域の方々とのつながりがあることが当たり前になっている点で「関有知居場所カフェ」もぜひ、まず1年でも試しにやっていただけると、その次への広がりが出ていくと感じました。

## 【教務部】

### I 自己評価

1 学校教育目標	生徒一人一人の「生きる力」を育むため、個々の能力や長所を伸ばし、優れた創造性と豊かな社会性をもった、逞しく実践力のある心温かな人間の育成を目指す。	
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導・情報管理【教務部】	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導について生徒や保護者からの評価は好意的な評価が多いものの、教職員の自己評価は比較的厳しい。</li> <li>・ホームページや一斉メールを活用した情報発信についての評価は昨年度より大きく向上した。</li> <li>・家庭での学習習慣の定着のための指導については、教職員・保護者ともに評価が低く、今後指導のありようを検討する必要がある。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校組織の改編を踏まえ役割の明確化をすすめる。</li> <li>◇新型コロナウイルス感染予防への対応を進めるとともに、生徒の学習の機会を守るように年間行事計画の見直しを行う。</li> <li>◇情報管理担当を中心に、ICT機器活用のための環境整備を進めるとともに、より良い活用を促すため教員への啓発や研修を行う。</li> <li>◇学校の現状を客観的に把握し、課題を明らかにした上で新しい教育課程の編成を進める。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校組織の改編が行われたため、戸惑うことも予想されるが、新しい組織の利点と課題点を抽出しながら業務にあたる。</li> <li>・他の分掌と情報を共有しながら業務を進める。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教務部内での情報交換を密にし、協力して業務にあたる。</li> <li>(2) 各分掌との連絡を密にとり柔軟に行事計画の見直しを実施する。</li> <li>(3) ICT機器活用のための環境整備を行う</li> <li>(4) ICT機器活用のため研修を実施する</li> <li>(5) 様々なデータを分析しまとめる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教務部による内部評価</li> <li>(2) 職員による相互評価</li> <li>(3) 保護者や生徒によるアンケート</li> <li>(4) ICT機器活用の頻度と内容の充実</li> <li>(5) データのまとめの作成と、新しい教育課程編成に向けての活動の進展</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力向上に向けた分析と取り組み</li> <li>・時間割編成及び授業時数の確保</li> <li>・定期考査・成績処理の円滑な運営</li> <li>・単位取得に向けた支援体制の構築、学年会との連携をすすめる</li> <li>・ICT環境の整備、職員研修の実施</li> <li>・新型コロナウイルスへの対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①組織的に業務にあたることができたか</li> <li>②ICT機器活用の度合いと内容の充実が図れたか</li> <li>③新型コロナウイルスへの対応が適切であったか</li> <li>④学校課題を整理し改善を図れたか</li> </ul>	<p>A B <b>C</b> D</p> <p><b>A</b> B C D</p> <p>A <b>B</b> C D</p> <p>A <b>B</b> C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の安全の確保と学習機会を守る事、そして生徒に過度の負担がかからないように配慮して、新型コロナウイルス感染への対応を柔軟に行うことができた。</li> <li>○ICT機器の研修や実践の積み重ねによって、できるところから少しずつICT機器の活用を進めることができた。</li> <li>○先生方の協力によって効率的に成績処理や定期考査などを進めることができた。</li> <li>▲組織の改編に伴い、機動的に業務にあたる事ができたものの、見通しを持つことが不十分で混乱する場面もあった。</li> <li>▲基礎学力向上についてデータ分析や啓発はできたものの、具体的な活動にまですることができなかった。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度から実施する新しい教育課程を編成するとともに、実施に向けた準備を進める。</li> <li>・職員全体の学習支援アプリに対する理解を進めるとともに、実践を積み重ねさらなる活用を促す。</li> <li>・来年度も新型コロナウイルスなどの想定外の事態に柔軟に対応できるように、教務部内での情報交換をきめ細かく行う。</li> <li>・基礎学力向上に向けて、生徒の学力の客観的な把握の継続と学力向上への啓発を行う。また、生徒を学習に向かわせる動機づけの工夫について研究を行う。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

### 【意見・要望・評価等】

- ・ I C Tに関する授業見学の際に全体的に前向きな姿勢で取り組んでいたのが概ね良好と考える。 I C Tの活用が生徒の学力の向上に寄与しているかを常に検証して進める必要がある。
- ・ 生徒が学習意欲を失う原因の把握を行い必要な対策を行ってほしい。
- ・ 基礎学力の向上は関有知高校の大切な役割であると感じている。学び直しから丁寧にやっているとありがたい。
- ・ 小さな行動でもいいので行動を起こしそれが評価されるという成功体験の積み重ねが、関有知高校の生徒にとって大切だと考えています。

# 【生徒指導部】

## I 自己評価

1 学校教育目標	生徒一人一人の「生きる力」を育むため、個々の能力や長所を伸ばし、優れた創造性と豊かな社会性をもった、逞しく実践力のある心豊かな人間の育成を目指す。		
2 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談）【生徒指導部】		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モラルやマナー等、規範意識に関わる指導や日常生活指導に対して、生徒、保護者等ともに肯定的な評価が得られ、一定の理解が得られた。</li> <li>・いじめや差別に対する対応については、生徒は肯定的に評価しているが、保護者等からは理解が得られていない部分があった。また共感的指導に対する評価が下がった。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇命を大切にする心や態度の育成</li> <li>◇人権意識の高揚といじめの未然防止</li> <li>◇自己指導能力を育むための支援</li> <li>◇規範意識や倫理観の育成</li> <li>◇望ましい集団の育成や個人的・社会的資質の育成</li> <li>◇教育相談・特別支援教育の組織的な対応</li> </ul>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導・・・学年生徒指導担当者と学年主任を中心とした学年団</li> <li>・教育相談及び生徒支援・・・SCや相談係と学年会の連携</li> <li>・交通安全・・・MSリーダーズやPTA役員との連携</li> <li>・いじめ未然防止・・・学年団での情報共有や月例の情報交換会の活用</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組 (1) 生活指導（身だしなみ、遅刻、スマートフォン等） (2) 交通安全啓発や挨拶活動 (3) 月1回の情報交換会、学年会での情報共有やメールアンケート等の活用 (4) 年間3回の教育相談の実施	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標 (1) 各種生活指導の状況や問題行動の状況及び生徒意識調査の結果 (2) 交通事故報告件数やMSLの活動状況 (3) 「いじめ・めいわくアンケート調査」の結果 (4) 各種アンケート等調査結果		
8 取組状況・実践内容等 ・生活指導（身だしなみ、スマートフォン等） ・遅刻者に対する面談 ・週1回の交通安全啓発と挨拶活動や交通安全のキャンペーン活動 ・教育相談係や学年会からの情報交換の実施 ・教育相談における職員研修	9 評価視点 ①身だしなみ指導等の状況 ②遅刻者の状況 ③交通事故報告件数 ④生徒の変化やいじめの早期発見とその対応に向けての取組	10 評価 A <b>B</b> C D A <b>B</b> C D <b>A</b> B C D A <b>B</b> C D	
11 成果・課題	<p>○月1回の身だしなみ指導とそれに伴う事後指導を継続した。自らの正しい判断力と行動力に繋がられるよう、日頃から全職員で粘り強く声掛けを行った。</p> <p>○MSLや生徒会執行部による交通安全への啓発活動やモラル・マナーアップの活動は年間を通して積極的に活動できた。</p> <p>○悩みや課題を抱える生徒に対して、早期に情報を共有し組織で対応できた。</p> <p>▲定例の身だしなみ指導に対する意識は高まっているが、日常の身だしなみやスマートフォン所持違反などの指導に困却している。</p> <p>▲スマートフォンの使用マナーやモラルの指導に課題が残る。</p>		総合評価 A <b>B</b> C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・アンケートから分かる迷惑行為等を告知し、生徒の人権感覚や公共マナーの定着を図りたい。 ・人間関係作りに課題を持つ生徒や個人の特性として課題を抱える生徒が増えてきた。より一層専門家との連携を図っていききたい。 ・情報モラルに対する意識・行動変容の指導を図りたい。			

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

### 【意見・要望・評価等】

- ・生徒たちの様子が穏やかで落ち着いてきているのは、日頃のたまものである。従来の生徒指導から生徒たち自らが考える生徒指導への模索を進められるとよい。
- ・「自己指導能力の育成」は大切なことと考える。自分に自信を持つことと共に、失敗から這い上がる力や立ち直れる気持ちを育ててやりたい。
- ・コロナ禍において、生徒たちができることを考え行ったことは、困難に立ち向かう姿として頼もしく映った。
- ・不安定な状況での新年度スタートであったが、様々な取り組みや見守りの中で、生徒たちは安心して学校に通えたのだと思う。
- ・ライフル部の躍進が他校との差別化や魅力に繋がっている。他校にはないダンス部等の部活動を意識的に増やせるとよい。
- ・心のアンケートの実施やスクールカウンセラーの活用は必要な取り組みである。事案への対応や効果について可能であれば知りたい。
- ・自治体が行っている生活困窮世帯への支援があるが、大人からでは見えにくい所があり、子どもから発見できないものかと思っている。具体的な取り組みがあれば教えてもらいたい。

## 【進路指導部】

### I 自己評価

1 学校教育目標	生徒一人一人の「生きる力」を育むため、個々の能力や長所を伸ばし、優れた創造性と豊かな社会性をもった、逞しく実践力のある心豊かな人間の育成を目指す。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導【進路指導部】	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な進路情報の提供及び適切な進路指導についても、将来の希望に沿った具体的な進路指導についても、生徒・保護者ともに肯定的な回答が多く、継続して本校の進路指導についての一定の理解が得られていると考えられる。</li> <li>一方で生徒・保護者ともに、いずれも「わからない」という回答が減り否定的な回答が増えており、情報等は提供できているもののまだ不十分な部分があることが考えられる。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇生徒自らが進路を選択できる能力や態度を育成するため、発達段階に応じた計画的かつ適切な進路ガイダンス等を展開し、個々の生徒の進路希望を具体的に掌握する。</li> <li>◇地域の産業や企業についての理解を深めるために、関市商工課との連携を強化し企業ガイダンスなどを行う。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会、進路指導部会での情報交流と連携を重視した指導体制</li> <li>・進路指導マップや職員会議で月ごとの指導目標を示すことにより、共通理解のもとでの全職員による指導体制</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 校内外進路ガイダンスの実施 (2) 関市商工課と連携した地域の企業による企業ガイダンスなど	(1) 生徒の感想、企業、上級学校の感想、卒業後の生徒の様子 (2) 生徒の感想、関市商工課や企業の感想	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション、職業調べ、大学調べ、進路講演会、進路別体験講座</li> <li>・オンライン企業見学ツアー（1年生）</li> <li>・職業探究インタビュー（2年生）</li> <li>・進路別ガイダンス、面接・小論文指導、就職補習、合格者・内定者指導（3年生）</li> <li>・会議・情報共有の改善（教職員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①就職や進学についての関心を高めることができた。</li> <li>②仕事に対する考え方を深めることができた。</li> <li>③進学に対する視野を広げることができた。</li> <li>④目指す進路に対してより具体的に考えることができた。</li> </ul>	<p>A <b>B</b> C D</p> <p>A <b>B</b> C D</p> <p>A <b>B</b> C D</p> <p>A <b>B</b> C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路指導部会と各学年会とより連携して、進路ガイダンスなどの行事を企画・運営できた。</li> <li>○進路情報をより分かりやすく提供するため、『進路の栞』を利用した進路学習の時間を取り入れることができた。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症の影響により行うことができなかった行事についての代替として、関市商工課と協力してオンラインなどを利用するなど新しい方法で進路学習を行うことができた。</li> <li>○関市商工課や本校のキャリアプランナーと協力して、地元企業との信頼関係の維持や卒業後の生徒の動向把握を行うことができた。</li> <li>▲新型コロナウイルス感染症の影響により予定していた進路行事等を行うことができなかった。</li> <li>▲進路ガイダンスの内容、時期、方法は対象生徒の実態に合わせてより有意義な取組となるように研究を続ける必要がある。</li> <li>▲保護者に向けた情報発信の手立ても改善する必要がある。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路の栞だけでなく『進路指導マップ』を利用して3年間の進路指導のカリキュラムを見通すことができるようにする。</li> <li>・今年度行うことができなかった進路行事の実践と内容・時期・方法の分析や検証を行うとともに、代替で行ったオンラインを活用した行事を検証することで来年度の行事の方法をより改善していく。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

### 【意見・要望・評価等】

- ・ 1年次から適切に進路指導がなされており、高く評価できます。これまで以上にできるだけ、市役所や企業の方々、大学や専門学校の教職員など外部の人材を活用した、より充実した進路指導がなされることを期待します。
- ・ 1年生の段階から社会に出る準備をしっかりといただいていると感じます。オンラインでの企業面接などにも対応できるように、色々なマナーを身に付けるご指導を引き続きお願いいたします。
- ・ なかなか企業の話聞くだけでは、理解が深まらない部分もあり、コロナ禍では難しいですが、職場体験が最も大切だと思います。単なる職場体験ではなく、職場から仕事の課題を与えてもらい、それに対して取り組む、課題解決型職場体験が高校生のキャリアを考える上でとても効果的だと思います。
- ・ 卒業後の進路が、進学であったり就職であったりと多方面へ指導しなくてはいけない中「進路指導マップ」という具体化されたものがあり、生徒さんにはわかりやすく将来の自分を探し出せるのではないかと感じました。
- ・ 学校を見学させていただいた時、進路指導の部屋も明るく入りやすく感じました。進路というと、生徒さん自身も迷いや悩みを持っていると思うので少しでも明るい雰囲気でお気軽に相談できる場を提供して上げれるといいのかなと感じました。



## 【家庭教育部】

### I 自己評価

1 学校教育目標	生徒一人一人の「生きる力」を育むため、個々の能力や長所を伸ばし、優れた創造性と豊かな社会性をもった、逞しく実践力のある心豊かな人間の育成を目指す。		
2 評価する領域・分野	◇「家庭教育部」		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種検定試験や外部講師講習会などの学科行事を適宜、HPに掲載し生徒・保護者だけでなく地域へも生活福祉科の情報を速やかに発信しているという評価を得ることができた。</li> <li>授業及び実習形態、実習器具等の管理におけるコロナ感染予防対策の徹底により、生徒には健康管理・安全面で十分に配慮されているという結果が得られたが、保護者には周知されていない結果であった。</li> <li>学習評価は、テスト以外からも評価していることは理解されているが授業の教え方や説明が分かりにくいという生徒もいるため、授業内容の精選と指導法の工夫に加え、検定等の合格率を上げ、生徒に達成感を感じさせなければならない。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇検定や外部講師講習会を通し、専門科目の知識・技術を高める。</li> <li>◇ボランティア活動、地域交流活動に積極的に参加することを通し、実践力・コミュニケーション力を育成し生徒の課題解決能力を高める。</li> </ul>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科行事の企画・運営と研究推進</li> <li>・学校家庭クラブ活動・Sクラブ活動の指導</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 専門科目・コースの系統立てた授業と効果的な外部講師講習会の実施による知識・技術の定着</li> <li>(2) 専門科目および学校家庭クラブ活動、Sクラブ活動、福祉協力校の活動、ボランティア活動を通じた地域交流の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒および外部講師による評価および各種検定やコンクールの取り組みと成果</li> <li>(2) 生徒および地域交流施設による評価・助言</li> </ul>		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目・コースの系統立てた授業内容と外部講師講習会内容の見直し</li> <li>・各種検定試験、コンクールへの挑戦</li> <li>・対面交流以外での地域連携と交流（開市社会福祉協議会・特別養護老人ホームハートフル・あかつき障害福祉サービス事業所つくし・安寝ふれあいクラブ・下有知保育園）</li> <li>・県連家庭クラブ副会長校としての活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 知識・技術の定着、実践と各種検定・コンクールへの応用</li> <li>② 検定合格数、コンクール取り組み状況</li> <li>③ 地域交流施設等による評価と助言</li> <li>④ 家庭クラブ役員の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① <input checked="" type="radio"/> A B C D</li> <li>② A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> <li>③ <input checked="" type="radio"/> A B C D</li> <li>④ A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> </ul>	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナウイルス感染予防対策を徹底し、多くの外部講師講習会を実施することができ、生徒により専門的な知識と技術を習得させることができた。検定試験も計画通り実施し、種目・級によっては高い合格率であった。</li> <li>○コロナウイルス感染予防対策による様々な影響があったが、課題研究等を通して実際に施設に赴かず、地域と交流する方法を模索することができた。</li> <li>▲家庭クラブ活動、Sクラブ活動で実施してきた交流については、実施を見送ったものが多く、生活福祉科の生徒が例年取り組んでいる「月1ボランティア」の活動も実施することができなかった。</li> </ul>		総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭クラブ活動、Sクラブ活動において、施設等へ赴かない交流の実施を実現する。</li> <li>・全教員に協力を要請し、校内および学校周辺で行うことができるボランティア活動を実施していき、周辺地域に理解が得られれば、周辺施設での施設外ボランティアを実施させていただく。</li> </ul>		

### II 学校関係者評価

実施年月日：令和3年2月22日

#### 【意見・要望・評価等】

- ・対面以外の方法で様々なボランティア活動に取り組んでいた。今後も続けてほしい。
- ・資格取得、外部講師講習会など学び舎経験を大切にしている。